

令和2年度 適応指導教室『やまびこ』

○ 今年度の取り組み（成果）

①学校への復帰

適応指導教室に在籍する中で、学校や保護者と話し合い、本人が無理のない学校との関わりを探っていく中で

⇒学校に登校できなかった状態から、定期的に登校(別室、保健室等含む)できるようになった。

⇒学校登校日(火曜日)を中心に放課後登校できる日が増えた。

⇒担任等がやまびこに来所した時や家庭訪問した時に会えるようになった。

②特別活動を通して

毎月イベントを設定し、活動する中で

⇒行事に参加できたり作品を完成させたりすることで、達成感を得ることができた。

⇒苦手なことや初めてのことに挑戦してみようとする気持ちが持てるようになった。

③様々な人やものとの関わり

家族以外のひとやものとのふれあいを持つことによって

⇒多くの子どもが異年齢の小集団の中に入り、他者と一緒に活動(ゲーム等)できるようになった。

⇒自分以外の人の行動や興味のあることに関心を寄せるようになった。

④子どもの変化

同年代の子ども同士の交流や小集団での活動を行う中で

⇒表情が和らぎ、居場所の一つとして通級できるようになった。

⇒お互いのしていることや会話に耳を傾けたり注目したり、他を意識して生活するようになった。

⇒好きなこと興味のあることをして認めてもらうことで、自分に自信を持てるようになった。

⑤情報の共有

保護者、学校、他機関と面談や情報交換することで

⇒個々の子どもの様子や抱えている問題について共通理解が図れ、目指す方向性を共有することで、その子に応じた適切な支援を継続して行うことができた。

○ 今後の課題

・面談や情報交換、支援の検討会をさらに充実させ、子どもの抱えている課題や現状を見つめながら、安定して過ごせる環境づくりと学校復帰の手がかりを探る。

・小集団で過ごすことや活動に参加することへの抵抗感を抱く子どもがおり、生活リズムを整え安定して通室できる、または定期的に通室し同年代の子どもと顔を合わせることができるよう環境整備および本人、保護者との関わりを目指す。

・本人および保護者が中学卒業後も安心して生活できるように、他の相談機関へつなぐ等、手立てや関係機関とのネットワーク作りを充実させる。